

会 議 要 旨 書

会議名	第 5 期三鷹市生涯学習審議会第 3 回定例会 第 34 期三鷹市社会教育委員会第 3 回定例会
日 時	令和 8 年 2 月 3 日（火） 18 時 30 分～20 時 30 分
場 所	生涯学習センター ホール
出席委員 （15 人）	田中雅文 矢崎喜美子 齋藤智志 廣瀬圭子 三橋優子 生田美秋 間部豊 内田直子 塚田明美 植田幾代 藤橋初美 松田秀穂 加藤綾子 高橋千恵 尾又一実
欠席委員 （5 人）	山口和昭 丸岡近賀子 進邦徹夫 東山昌央 青木睦
行政職員 （8 人）	スポーツと文化部長 大朝摂子 スポーツと文化調整担当部長・スポーツ推進課長 平山寛 教育部調整担当部長・総務課長 寺田真理子 生涯学習課長 八木隆 生涯学習課生涯学習係長 森宏樹 同主任 齊藤満里奈
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	0 人
開会 1 開会 事務局より委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告し、配付資料の確認を行った。 2 議題 「三鷹市生涯学習審議会・三鷹市社会教育委員会第 3 回定例会の意見」の策定に向けた検討（市民満足度調査の調査内容について） 生涯学習課長より、議題について説明を行った。 【副会長】 本日はこれらの資料に基づき意見交換を進めたい。資料 1 について質問はあるか。 【スポーツと文化部長】 追加で説明をする。他市の例にある個別計画の調査は、各市独自の計画策定のために単独で行われることが多いが、三鷹市や調布市のように総合計画策定時に各分野をまとめて調査する自治体もある。三鷹市は 4 年に 1 回、総合的な調査の中で生涯学習の設問を設けているため、調査手法自体を変えることは難しいことをご理解いただきたい。この比較表では、各自治体の調査方法や調査項目について、各市それぞれの考え方で行っていることがお分かりいただけると思う。 【副会長】 議論にあたって注意しておくべきことはあるか。 【スポーツと文化部長】 今回は、生涯学習の有無を頻度だけで問う現在の形式に疑問があるた	

め、国の調査の実例を参考に設問を変更してみたいと考えている。設問を変えると過去のデータと単純比較はできなくなるが、国との比較や今後の継続性を考慮し、変更の理由や内容についてご意見をいただきたい。

【副会長】今回変更するということは、大きなターニングポイントとなるため、慎重に意見を集約したい。

【スポーツと文化部長】調査項目の変更は最終的に市の責任で行うので、委員の皆様にはあまり気負わずにご意見をいただきたい。また、最終決定は企画部との協議も必要なため、変更が生じる可能性があることもご承知おきいただきたい。

【委員】調査の見直しは思い切った判断で重要なことだ。2点質問がある。国を参考にするとのことだが、同じ市町村レベルの調査を参考にはなかったのか。また、武蔵野市で実施しているような、講座受講者に対するアンケートについてはどう考えているか。

【スポーツと文化部長】他市との比較も考えたが、近隣市の調査は質問数が多く、また自治体ごとの違いもあるため比較対象を絞るのが難しい。東京都に同様の調査があれば比較したかったが、特に実施されていないため、国の調査を参考にし、広域と基礎自治体との比較を行うのが良いと考えた。講座受講者に対するアンケートについては、既に各施設で実施しているデータを活用することは可能だと考えている。

【副会長】他市の調査項目で参考にできそうな独自の項目はあったか。

【スポーツと文化部長】小金井市では児童生徒向けのアンケートを実施しており、これは三鷹市にもなかった視点である。三鷹市でも来年度、子ども政策部が子どもに向けた調査を実施予定であり、生涯学習に関する内容も含まれる可能性がある。その際、審議会でご報告等も可能であると思う。

【副会長】コミュニティスクールでのアンケートとも連動させれば、新たな気づきが得られる可能性がある。

【委員】資料1にある調査対象について質問する。三鷹市の15歳以上という対象者はどのように抽出・調査されたのか。また、10代から各年代の人口割合に応じた配分なども考慮されているのか。

【スポーツと文化部長】住民基本台帳から無作為抽出で3,500人を選び、郵送で調査票を送り、郵送またはウェブで回答してもらう形式となっている。回収率は43.7%程度である。サンプリング時は母集団の年代構成比に合わせており、回収後の有効回答のばらつきについても配慮されている。

【委員】前回、回答数の少なさや偏りに注意が必要との話があったため、調査方法や割合について確認した。

【副会長】データの根拠を押さえることは重要だ。

【委員】質問項目数が自治体によって異なるが、三鷹市の4問は適切なのか。

【スポーツと文化部長】比較表で見ると決して多くはない。専用の調査を行っている市は質問数が多いが、三鷹市は全体調査の中での割り当てのため質問数を増やせない事情がある。限られた4問で必要な情報をしっかり取得できるようにしたいと考えている。

【委員】府中市の29問というのはなぜこれほど多いのか。

【スポーツと文化部長】府中市は生涯学習に関する単独の市民アンケートを実施しているため、質問数を多く確保できているのだと思う。

【会長】（司会交代）資料2と3についての質問や意見はいかがか。

【委員】質問項目1から4が、三鷹市生涯学習プラン2027にある「まなびたい」「ふかめたい」「いかしたい」「つなげたい」という目標につながる指標として設定されているかどうかが重要だと思うが、その点はどうか。

【スポーツと文化部長】計画の目標と検証を結びつける視点は重要だと考えている。しかし、全市民向けの意識調査の4問ですべてを賄うのは難しい。受講者アンケートなど他のデータも活用しながら検証していくべきだと考えている。

【会長】三鷹市の4項目は施策体系とはある程度対応していると理解してよいだろう。

【委員】資料3について、設問1の変更が最も大きいと感じる。学習内容を具体的に列挙しているが、回答者としては、例えば施設での学習なのか独学なのかなど、どう答えてよいか迷うのではないか。

【会長】委員がイメージされていたのはカルチャーセンター、三鷹ネットワーク大学、通信教育などの具体的な場所ではないか。

【委員】仕事関連か趣味かといった大分類の方が良いのではないか。回答結果の活用を踏まえた設問になっているか。

【会長】国との比較や分析の観点から、国の分類に合わせるという考え方ではないか。

【委員】委員と同様に、アンケートが届いた時にどう答えるか悩むと思う。例えば15歳の子どもにとって学校での勉強は含まれるのか、YouTubeでの学習は含まれるのかなど、「生涯学習とは何ぞや」という定義がないと答えにくい。先ほど委員がおっしゃったように、結果を何に反映させるかなど、答える側としてイメージしづらいかもしれない。

【スポーツと文化部長】アンケート設計にあたり、回答者の主観による認識のばらつきをどう抑えるかが課題である。これまでは学習頻度を直接問う形式をとっていたが、学習の定義に個人差があることや、学習手段の多様化が進む中で、単に頻度を聞くだけでは実態を正確に把握できないという問題意識があった。そこで、実態をより正しく反映させるために「質問1」の改定を検討しているが、三鷹市独自の基準で作ると他地域との比較が困難になるため、国の全国調査に合わせることを考えている。その上で、回答しにくいという懸念に対しては、質問の前に説明を加えるなどして対応したい。

【会長】今回の調査案において、「生涯学習」から単なる「学習」へと変更されている点は、国の調査とも合致しており重要である。遊びやテレビ視聴などから無意識に学ぶ「偶発的学習」を除外し、意識的な学習活動に対象を絞ることで定義を明確化できるため、このような方向性で考えてよいと思われる。一方で、回答者が学習の方法、特にインターネットを用いた学習などが「学習」に含まれるか迷う懸念が残る。学習には内容と方法の側面があるが、現状の案では内容のみが示されているため、国の調査を参考に主要な学習方法を具体的に例示すべきである。特に現代ではインターネットによる学習が主流となっているため、これらを含む多様な手段が「学習」であることを明記し、回答者が学習活動をイメージしやすい形式に整えるのが望ましい。

【スポーツと文化部長】内容と方法を整理し、方法についての記述をどう反映させるか検討する。

【委員】以前このアンケートに答えた際、選択肢に悩んだ経験があり、学習回数ではなく内容を問う方向性は実情に合っていると思う。また、三鷹市が独自に進めている学校や地域コミュニティにおける多様な学習機会の増加も調査では考慮すべきである。特に子どもにとっては学校教育と生涯学習の関係がよくわからなかったりするので、こういった背景を踏まえた調査にしてほしい。

【委員】質問文の「月に1日以上」というのはどの程度の長さを指すのか。

【スポーツと文化部長】1回という意味に近い。時間の長さを聞いているわけではない。

【委員】それならば「1回以上」の方が分かりやすいのではないか。

【会長】1日の中で複数回学ぶこともあるので、厳密には違うが、回数でも日数でも大きな差はないだろう。

【スポーツと文化部長】基本的には延べ回数を聞いているが、答えやすく迷いのない表現に修正したい。

【会長】国との比較を考えると文言は合わせた方が安全だとは思いますが、三鷹市民にとってどのような表現が適切か周囲の人に回答してもらうなどして確認し、検討していけばよい。

【委員】設問1と2は国に合わせて変更しているが、設問4の今後やりたいことは国に合わせて、現行の三鷹市の項目に近い形で残しているのはなぜか。国では質問項目が連動している。

【生涯学習課長】設問4について、現行の設問では芸術・文化の鑑賞・体験に関する質問が前段にある。そちらとの兼ね合いがあり、国には合わせず、従来の市の設問にスポーツを追加する形にしている。

【委員】質問項目の構成上、意識的に変えたということか。

【スポーツと文化部長】お見込みのとおりである。実際の調査では芸術・文化に関する質問と連続して聞く構成になっているため、生涯学習だけ変更するのが難しい状況であった。ただ、比較の観点からは設問1と4を合わせた方が良いというご意見があれば、芸術・文化の方も含めて見直すことも可能である。

【会長】設問1から3までを「学習活動」としておきながら、ここで「生涯学習活動」という言葉が出てくるのはわかりづらい。芸術・文化についてはそのままにして、すべて「学習活動」に統一したうえで、設問4も設問1と同じ選択肢にした場合、問題はあるか。

【スポーツと文化部長】調整可能である。芸術・文化も含め生涯学習の視点から総体として聞くことを優先した方がよいと思う。

【会長】比較分析の視点をどこに置くかが重要である。三鷹市における過去のデータとの経年比較を行うためには従来の選択肢を活かした方がよいが、本調査では市民の「希望」と「現実」のギャップを明らかにすることが重要である。したがって、希望を問う設問と実態を問う設問の間で両者の関係性を適切に分析できるよう、設問1と設問4の形式を統一したほうがよいと思われる。

【スポーツと文化部長】お示しいただいた方向性は非常に重要であると考えてる。

【委員】設問4には「科学に関すること」があるが、設問1には該当する項目がない。設問1

と4を合わせるならば、国の調査に合わせるのではなく設問1を設問4に合わせて三鷹市独自の項目にした方が、市民の希望とのギャップを詳しく取れるのではないかと。

【会長】それも踏まえて検討してほしい。現状の回答率なども参考にして判断すべきだ。

【スポーツと文化部長】国との比較か、三鷹市独自の比較か、どちらにするか悩んだ経緯がある。委員の指摘通り、三鷹市独自の比較要素を残すか、国との比較を重視するか、再度検討したい。

【委員】回答のしやすさでは、項目が細分化されている選択肢4の方が答えやすい。例えば「科学」といった学習を行った場合、選択肢1では適合する項目が存在しないため、結果として「その他」の回答が多くなってしまう可能性がある。また、「地域の伝統文化・郷土史」は国の調査には当てはまるものがないと思われる。

【会長】設問4の選択肢を検討するにあたっては、例えば「科学」などの特定の項目に高い回答率があるならばその選択肢を残し、低い場合は採用しないなど実際の回答結果を考慮した上で検討していただきたい。

【委員】今回の4問は基本施策に対応するように作られており、単に国の調査を参考にしただけではなく、非常によいと感じている。表記のところで、設問1では「マルはいくつでも」となっているが、設問2と3は「複数選択」となっているので調整してほしい。また、学校での学習を除外したいなら、選択肢に学校の勉強を入れておき、集計時に除外する方法もある。設問2の「生かす」の漢字表記は生涯学習プランと異なっており、調整した方がよいと思われる。

【会長】「いくつでも」と「複数」では、「いくつでも」の方が分かりやすい。「生かす」の表記については検討してほしい。

【委員】「生涯学習」から「生涯」を取って「学習」にすると、学校での学習なども含まれ、三鷹市の生涯学習事業に対する満足度調査という意味合いが薄れてしまうのではないかと。

【会長】「生涯学習」という言葉は、概念上は人生の全段階における学びを指し、学校教育も含むものである。生涯にわたって学ぶことを強調するときの言葉が生涯学習となる。行政用語として用いられる生涯学習は、学校教育を除いた従来の社会教育を指すことが多く、文脈によって意味合いが異なる。しかし、今回の調査においては、細かい定義の違いは意識せず「学習」という表現で統一して差し支えないと考える。一方で、計画や施策といった行政上の文脈においては、行政用語としての慣習に従い生涯学習という表現が使われるかと思う。

【委員】この調査は三鷹市民が学習に対してどれくらい満足しているかを調査するのではなく、「三鷹市の生涯学習事業」への満足度を調査するものだと考えていたが、どうか。

【スポーツと文化部長】この調査は個々の事業への満足度を問うものではなく、計画の目標である「生涯学習に取り組んでいる市民の割合」を把握するためのものである。より多くの市民に生涯学習に触れてもらい、生活を豊かにしてもらうことが目的なので、その割合を把握するための質問設定となっている。

【委員】つまり、個別の事業に対する満足度ではなく、市民全体の生涯学習への取り組み状況を知りたいということか。

【スポーツと文化部長】生涯学習行政の目的は、市民が生涯学習に触れる機会を増やし、生活の豊かさや人生の満足度を向上させることにある。したがって、本計画における全体調査の主

眼は、個別の事業評価ではなく、生涯学習に取り組む市民の割合を把握することに置かれている。個々のイベントや施策に対する満足度については、受講者アンケートなどを活用し、計画に反映させることはある。ただし、今回の総合的な調査では生涯学習をしている市民の割合を聞くことが目的になっている。

【委員】三鷹市の調査は令和4年に実施され、4年に1度の頻度で行われている。国の調査と時期が重なるのであれば、国のデータとの比較分析も可能になるのではないか。

【スポーツと文化部長】国の調査は定期的に行われているわけではなく、その時々都合やテーマに応じて実施されており、設問内容も毎回変化している。一概に比較対象として適しているとは言い難い。国の令和4年のデータは三鷹市の実施時期と比較的近いため、比較も可能であるが、調査の継続性や比較可能性を考慮すると、先ほどの議論の通り、国との比較よりも市独自の経年変化の把握も重要だと思われる。

【委員】80代以上の回答率が低いようだが、配布数は年代別に調整しているのか。

【スポーツと文化部長】配布数は人口比率に合わせている。回答率については、今までは高齢者の回答率が高かったが、最近はインターネット回答も可能になったこともあり、傾向が変わってきているかもしれない。

【委員】問1の選択肢11番「その他」について、具体的に記述させる形式で良いか。

【スポーツと文化部長】記載する項目は設けるつもりだ。

【委員】その人がどのようなことを生涯学習と認識しているかが分かるので、ぜひ具体的に書いてもらうようにしてほしい。

【委員】設問2の「具体的に」という記述がなくなっている点や、設問3で「その他」がなくなっている点について確認したい。

【生涯学習課長】設問3は国の調査に合わせたため「その他」がないが、設問2についても記述欄を設けることにする。設問3の「その他」についても検討する。

【会長】「その他」があった方が親切だし発見もあるので入れる方向で検討してほしい。

【委員】学習というと講義や講習会などをイメージして構えてしまうが、歴史の本を読むなどの日常的な行為も生涯学習になるという気づきがあった。スポーツ推進委員協議会から出るので、スポーツという文字が入ったのは嬉しく思う。

【会長】本を読んで学習するのも学習なので、どういう方法で学習するかを例示してイメージしやすくするのが良い。議論は以上とし、この件については事務局で検討を進めてほしい。

2 報告

(1) 事務局より東京都市社会教育連合協議会交流大会の開催案内を行った。

(2) 関東甲信越社会教育研究大会神奈川大会の参加委員、第5ブロック研修大会の参加委員及び交流大会の参加委員から報告を行った。

3 その他

事務局より次回の日程について案内を行った。

日時：令和8年4月21日（火） 18時30分から

場所：生涯学習センター ホール

【会長】以上をもって、第5期三鷹市生涯学習審議会及び第34期三鷹市社会教育委員会議第3回定例会を終了する。

—閉会—